

池口岳(南アルプス最南部、大井川源流部)

(報告) M山

◎日程：2018年6月30日(土)～7月1日(日)

◎メンバー：F野(L)、Y澤(L途中から)、K田、F澤じ、T川、M山

池口岳はこんな方にはおすすめである。

- 樹林帯の中の長大な尾根歩きに没入したい
- テカリ岩を光岳の反対側から見てみたい
- 「南アルプスらしい深い森」という表現にときめく
- 静かな山歩きをしたい、でも指導標ははっきりしていると心強い
- 独りになりたい、でもソロ登山者3名程度との「こんにちは」できる
- 山崩れ(薙ぎ)の現場を確認したい
- 双耳峰が好き
- ギンリョウソウやゴゼンタチバナの秘めやかな群生を見てみたい
- 山頂まで28/30地点からの急登でもくじけない

初日は移動日。中央道飯田ICから東南に1時間余りのところにある、道の駅遠山郷に八王子と東三河から集合、付近にお住まいのK谷さんも駆けつけていただき、ジビエと五平餅ランチで再会を喜ぶ。付近の好景地として知られる下栗の里に向かう途中、連絡を受けたT川さんは急遽東京に戻ることになった。足湯に浸かりながらチーム愛知お手製のポトフとちらし寿司の夕飯の後、テント泊。



足湯に浸かりながら夕食ポトフとちらし寿司

登山当日は、早立ちし15分ほどの登山口に向かう。避難小屋泊と見られる車2台が先客。山頂まで1/30刻みの行程プレートに加え、新しくしっかりした指導標が整備されており道迷いの心配はない。ただらかに始まる唐松林の中の登山道は、少しずつ高度を増しながらアカマツからコマツガ、笹原、シダ原、シラビソと林の様相を変えてゆく。しかし、途中3箇所現れる薙ぎがスパイスになる以外、小さいアップダウンはあるものの、変化に乏しく距離以上に遠く感じる。

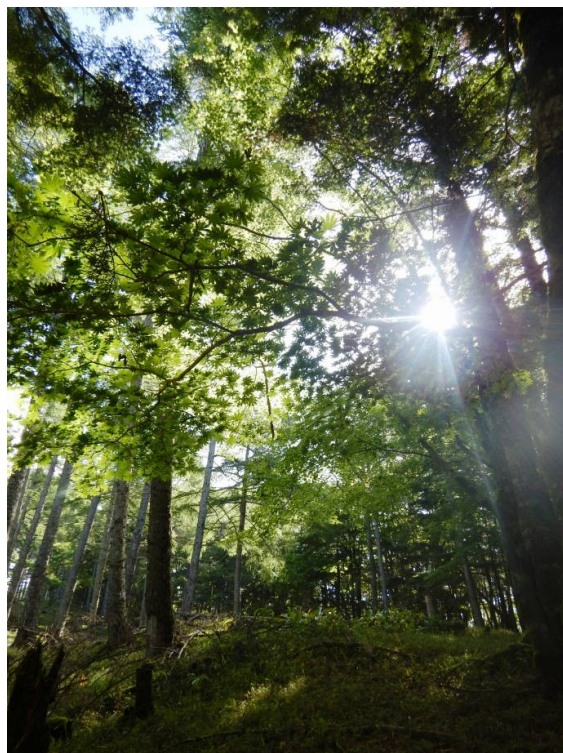


斜面崩壊している薙ぎ(なぎ)

途中F野さんが体調不良で下山され、Y澤さんにリーダー交代。黒薙に向かう途中に下栗の里が、

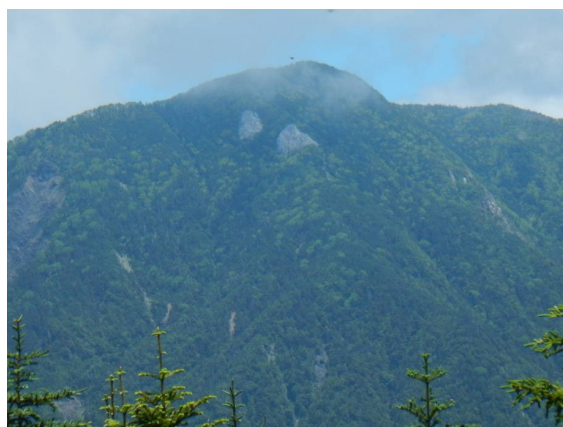
黒薙からは双耳峰の池口岳が望める。光岳とルートに分けるジャンクション手前の岩場2カ所（ロープあり）を越え、短い急な登りを終えるとようやく光岳が見える。

そこからわずかで展望のない北峰山頂、記念写真をとり、光岳の見える地点において大休止し、K田さん特製おにぎりを美味しくいただく。下山は、来た道を引き返すが、やはり呆れるほど長く、脚に来るので何度も休憩をとる。ぼーっと休んでいるとF澤さんの足下にヒルが登場し、一気に緊張感を取り戻しあわてて下山した。F野さんの待つ遠山郷のかぐらの湯は設備充実、汗を流し、水風呂で筋肉を冷やしたら、存外足へのダメージがなかった。池口岳登山の計画を長年温め、楽しみにされていたF野さんは、来年再挑戦すること、今回も鉄人ぶりを遺憾なく発揮されたチーム愛知のY澤さんも又登りたいと、この山を気に入られた様子だった。果たして自分は、来年歩き通せるだろうか、体力を搾り取られる久しぶりの登山だった。



南アルプスの深い森が美しい

南アルプス最南部、10年前のヤマケイ登山地図にはコースの掲載もない200名山、標高2,393mの池口岳は、一言でいえば玄人向けの山。池口岳の山頂を含む東斜面一体は、本州唯一の「原生自然環境保全地域」であり、手つかずの自然が残されているという。人気の無い長い尾根歩きの先に待つ急登の先に待ち受けるのは、360度の大展望ではなく、テカリ岩が小さく見える光岳と聖岳の一部程度ではある。しかし、内省的に山を歩くことや、遠くの鹿の音が響くような山の中に身を置くことをこよなく愛する方なら、一見地味に見えるこの山で過ごす時間は、かけがえのないものになるであろう。



山頂手前で光岳のテカリ岩が見える



池口岳北峰の山頂（見晴らしは無い）

《コースタイム》

池口岳登山口 5:20 ・ 黒薙 8:30 ・ ザラ薙平
10:10 ・ ジャンクション 11:35 ・ 池口岳北峰
11:50 ・ ジャンクション 12:35 ・ ザラ薙平
13:50 ・ 黒薙 14:50 ・ 池口岳登山口 16:50

標高差＝約 1,300m

距離＝往復約 19km

所要時間＝計約 11 時間 30 分